

親の会だより

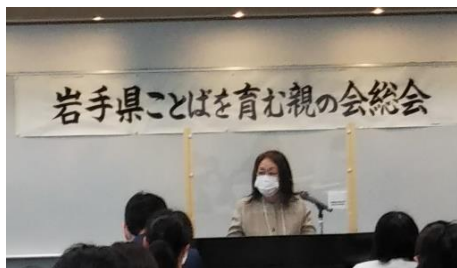
第104号

発行日 令和4年7月1日

発行 岩手県ことばを育む親の会

会長 主濱 友子

事務局 盛岡市立桜城小学校きこえとことばの教室内



会長挨拶

主濱 友子

令和4年6月12日に県親の会総会を開催しました。お忙しい中、ご出席いただきました研究会会長の紺野好弘様、ことばを語る会副会長の坂本信行様には感謝申し上げます。今年度は、コロナ禍で代表者研修は困難であると判断し、総会のみで開催となりました。

参集しての開催は3年振りとなりました。親の会も設立から56年が経過しています。この間に岩手県における通級による指導の対象の子ども達は、はじめの頃の「言語障がいや難聴」から広がりを見せ、今日では発達障がいも加わっています。当然、対象の拡大に適応した親の会のあり方も求められております。私どもは今後も先生方に全力で子ども達の指導に専念していただけるよう、教育環境の充実に向け、サポートしていかなければなりません。その中で通級指導教室の先生方の配置は加配枠から定数化への移行が5年経ちましたが現状はいかがでしょう？さらに、先生方の専門的な研修も課題となってきます。今後の各市町村の教育委員会訪問の際には、従来から取り組んでいる通級指導教室の充実及び拡充、先生方の研修についても要望をしていただきたいと思います。

さて、親の会の運営につきまして、課題を解決するためには地域での活動を活発にすることが大切であると考えます。この2年間活動できませんでしたが、ブロック毎の研修会を各地区にて開催していただきたいと思います。地元で開催することで、たくさんの会員の方々と交流を図ることが可能になり、会員の方も声もあげやすくなったと思われまます。そのような中では、支部リーダーが会員の皆さんと活動をともにすることが可能となり、支部活動にも効果が表れ、地域への啓発活動にも繋がっていくものと思っております。各支部の担当校の事務局の先生方には大変ご負担をおかけ致しますが、「研究会」や「語る会」の皆様のご協力を仰ぎながら、今後も地域に根づいた活動をしてまいりたいと思っておりますので、皆様方のご協力をお願いいたします。

また、親の会のホームページによる情報発信を活発に行いたいと思っております。「私たちの支部では『コロナ』禍でもこんな活動をしています」等々、支部の活動をHPにて紹介をしていきますので、情報提供のご協力をお願いします。

親の会の運営、活動に携わっている方々の熱い思いと温かい心は、時代が移ろうとも変わらないものと思っております。子ども達の健やかな成長を願って歩んで来た親の会ですが、その活動の裏には先生方のご支援、そして、関係機関の皆様方のご理解、ご協力があってこそ56年の歴史があります。先人達が成し遂げた成果を忘れることなく、その思いを今一度胸に、学べることの有難さを再認識し、何事においても一生懸命に取り組むことが大切と感じます。

各々の事業活動にあたって、これまで同様コロナの感染防止を心掛けてまいります。なお、感染が拡大した場合には、中止の判断もあるものと思っておりますのでご理解いただきたいと思います。皆様のご協力を、宜しくお願いいたします。



岩手県ことばを育む親の会 総会

6月12日(日)いわて県民情報交流センター(アイーナ)において、令和4年度県親の会総会が開催されました。参加者は、25支部から34名と、役員18名、来賓2名のご出席をいただき、54名となりました。開会式では、来賓の岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会会長 紺野好弘氏にご祝辞をいただきました。



事務局より昨年度の活動経過報告・決算報告があり、今年度の活動方針・事業計画・予算案が提案され可決されました。事務局からは、親の会の働きについて語り継ぐように活動していくこと、コロナ禍の状況でブロック研修会のあり方を工夫し活動していくこと、学校の統合のため通級範囲が広がっていることへの対応、幼児教室の全市町村設置のための働きかけをしていくこと、ICT等を含め教室環境の整備をしていくことなどの説明がありました。協議の中では、通級指導教室存続に関わり、教室担当と親の会の連携が不可欠であることや、コロナ禍に伴い、合宿研などの行事の工夫・改善が必要であることなどの意見が出されました。

総会の後には、ブロック毎に今年度のブロック研修会について相談し、各支部の交流を図ることができました。

<今年度の事業計画>

○第37回幼児期の言語教育研修講座

- ・期 日…令和4年8月20日(土)
- ・会 場…いわて県民情報交流センター(アイーナ)
- ・内 容…講座等
- ・対 象…幼稚園、保育園(所)の先生、保健師等、関心がある方。定員60名



総会の進行は、紫波支部長の蒲生麻衣子さん、書記は安代小学校の遠藤浩子先生にお願いしました。

○ブロック研修会の開催

- ・期 日…令和4年度9月～11月
- ・会 場…県内の支部が8ブロックに別れ、それぞれのブロックで開催。
- ・ねらい…ブロック毎に研修会を開催し、これからの親の会活動の活性化を図る。
- ・方 法…ブロック制による開催

- 盛岡A(盛岡・滝沢・雫石・矢巾・紫波)……………小原俊彦(事務局長)
- 盛岡B(八幡平・岩手・葛巻)……………林 義明(副会長)
- 県南A(花巻・北上・西和賀)……………小崎真樹(副会長)
- 県南B(奥州・金ケ崎・一関)……………小崎真樹(副会長)
- 県北A(久慈・洋野)……………岡崎清弘(副会長)
- 県北B(二戸・一戸・軽米・九戸)……………岡崎清弘(副会長)
- 沿岸A(田野畑・岩泉・宮古・山田)……………岡崎清弘(副会長)
- 沿岸B(遠野・大槌・釜石・気仙)……………櫻岡正久(副会長)



○すっぴんの会（吃音がある子と保護者の交流会）の開催

- ・期 日…令和5年1月28日（土）
- ・会 場…いわて県民情報交流センター（アイーナ）予定
- ・内 容…〔子ども〕レクリエーション 〔親〕座談会
- ・対 象…県内のことばの教室や幼児教室に通級または相談している吃音の子どもとその親。
ことば・幼児教室担当 等

○その他

- ・支部訪問の実施
- ・会報やホームページの活用
- ・親の会パンフレットの活用
- ・軽度、中等度難聴児の補聴器購入のための公費助成の周知と
はたらきかけ



〈全国ことばを育む会 総会・研修会〉

令和4年6月4日（土）～5日（日）に「NPO法人全国ことばを育む会 研修会・総会」がオンラインで開催され、県親の会からは会長、事務局長、事務局次長が参加しました。

総 会

5日の総会では、令和3年度の報告のあと、令和4年度の活動計画として「ことば誌」やHPによる情報発信、地方における組織の充実化支援、研修会等の実施、関係機関・団体との連携、会の効率的運営と体質強化を図ることを決定しました。その後、今後2年間の役員改選、顧問選任等が行われ、主濱友子会長が理事（東北ブロック担当）に、菊池義勝相談役が顧問にそれぞれ再任されました。総会終了後は、各県親の会アンケート調査結果や国への予算編成に関する要望事項等について、各県の実情を踏まえた意見交換が行われました。

研修会

演題 「あんたなら頑張れるよ」～きこえないあなたがすき きこえないわたしがすき～

講師 社会福祉法人+神やすぎ保育園（前島根県立松江ろう学校元校長） 福島 朗博 氏

令和4年6月4日（土）14時～15時半に、オンラインで参加いたしました。

福島先生のお話は、難聴者としての幼い頃の経験とろう学校の教師としての経験を通じた具体的で心に響くお話でした。子育て全般にも通じる、大変貴重なお話と感じました。

以下に大まかな内容をお知らせいたします。

- 1 聴覚障がいや情報の受容障がい。きこえない子どもの子育ては、子どもの気持ちを想像することが大切。
- 2 気持ちを受けとめてくれる、わかってくれる大人がいることが大切。
困ったときにしがみついて安心させてもらえることは、外への原動力となる。
家庭は、育つ、育てられるを通して、親子が一緒に成長する場である。



3 親の障がい受容と本人の障がい認識が大切。

小学校1年生の時の担任の先生から「特別支援教育は全ての教育の原点。教師を目指しなさい。」と言われたこと、「きこえない子どもの先生になってくれたらいいな。」というお母様が残された言葉から、言語障害児教育教員養成課程のある大学を目指したこと。難聴児をもつ親の会キャンプに参加し「きこえないことが役に立っている」初めての体験をし、大きな自己肯定感を得ることができたこと等をお話しくださいました。

「愛情いっぱい育ててもらって今があります。なにもかも、すっかりよく聞いてあげてください。愛情をいっぱいかけて育ててください。」という福島先生のお話が、とても印象的でした。

なお、内容がYouTube から視聴できるようになりました。是非ご覧下さい。(無料、8月末まで)

前半 <https://youtu.be/onn4dalEMV8>

後半 <https://youtu.be/IZVRWXnu4o0>

*お知らせ

①特定非営利活動法人全国ことばを育む会 事務局が移転しました。

〔新住所〕熊本市東区健軍本町17番13-405号

②会報「ことば」誌304号に県親の会から2名の原稿が掲載されました。

P20~21「皆さん、心の天気は晴れてますか」 会長 主濱 友子氏

P2~6「子どもと保護者にこたえる発音指導」 参与 森田 巧氏



<全国難聴児を持つ親の会 代表者研修会・総会>

令和4年6月26日(日)に「全国難聴児を持つ親の会 代表者研修会・総会」が開催され、県親の会からは会長がオンラインで参加しました。講演会には、担当者7名と保護者1名もオンラインで参加しました。

総会

開会式では、厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部の平田菜摘氏から、令和4年度予算での難聴関連施策・事業の①新生児聴覚検査の体制整備、②聴覚障害児支援のための中核機能の強化、③難聴に関する研究についてお話いただきました。次に、文部科学省の特別支援調査官 堀之内恵司氏から難聴児教育の現状や課題と、難聴児教育に関する施策動向についてお話いただきました。

総会では、令和4年度の活動計画として研修会の実施、会報「ベル」による情報発信、関係機関・団体との連携、今年度の予算を決定しました。

講演会

演題 「今求められる 多様な聞こえにくさを認めるということ(聞こえにくいとは)

難聴児の主体性を高める調整(支援)とケアコミュニケーションそしてアドボガシー」

講師 武蔵野大学 人間科学部 言語聴覚士養成課程 准教授 北 義子 先生

北先生は、子どもが言葉を獲得するために大事なことについて、実際に難聴の子と親との関りのビデオを見ながら、次のようなお話をしてくださいました。

言葉の発達は、人との関係性、空間と時間の共有が大切である。例えば「これは、飛行機よ。」と言葉だけを教えるのではなく、飛行機が飛んでいるのを見つけたときに、空を見て指さし「飛行機が飛んでるね。」と、お母さんが感じている気持ちも含めて、子どもと一緒に見るようなこと。ケアコミュニケーションとは、一緒に心をつるわせて言葉で共感することである。

難聴児は、ケア(お世話)が伝わりにくい。音が聞こえないと関心が向かないので、言葉が聞き取りにくいだけでなく視覚で捉えにくい。声と音との環境とのつながりの中で言葉は使われている。